

論文番号	題目	著者	討議者(質問者)	討議者所属	質問内容
1	河川津波	中山	佐藤	東大	「河川津波」との関連を説明してください。
1	河川津波を対象とした津波	中山	姫野一樹	国土交通省 国土技術政策総合研究所 海岸研究室	①今回の研究では、ソリトン共鳴による増幅値が、3.63倍という結果が得られたということですが、これより大きな増幅倍率となる可能性、どの程度までな
2	非静水圧を考慮した鉛直積分型堤防越流モデルの開発	池澤広貴・下園武範・佐藤慎司	岡安章夫	東京海洋大学	法面を持った構造物を対象としておられますが、直立防潮堤のような壁体での計算不安定性や適用性についてはいかがでしょうか。
2	非静水圧を考慮した	池澤広貴	浅野敏之	鹿児島大学	堤防越流とその後の氾濫流れをシームレスに繋ぐ数値解析を実施するのが目的とのことであるが、水平方向運動のみを考慮した鉛直積分型方程式で、鉛直流速成分の大きな法尻部の流れを表現できるのか。また、法尻部の流れが射流で跳水を経て氾濫流に遷移する流れもシームレスに扱えるか。
6	水面変動が気液界面のガス交換	寺岡, 杉原, 松永	水谷夏樹	大阪産業大学	①渦が存在するところは水面が下がり、渦がないと水面が上がると説明されていましたが、渦と水面の位相速度は同じでしょうか？
8	ダムブレイク遡上波の水面形状	渡部, 大島	水谷夏樹	大阪産業大学	①急勾配のケースで先端の少し後ろ側が「ひきのばされる」と説明されていましたが、圧力勾配との関係を詳しく説明していただけないでしょうか。 ②ゲートから近い領域ではCASE3の方が速く、ゲートから離れた領域ではCASE1の方が速くなっています。せん断応力の分布は、この領域の浸透流が生じるためには、粒子層に空隙が必要なはず。飽和度100%まで水で充填されていれば、浸透流は生じないのでは？
9	底面	猿渡亜由未	佐藤	東大	①満ち潮時と引き潮時で内部水位波高が異なるのはどのような理由によるのでしょうか。 ②測線1と測線3で汀線付近の粒径が大きく異なるように見えますが、これによる波高等の変化はあるのでしょうか。
10	サンゴ礁海浜の遡上帯における透水特性と堆積特性	藤川大樹・田島芳満・竹森 涼・岩塚雄大・琴浦毅・茅根 創	岡安章夫	東京海洋大学	①使用する層数に上限がありますか。 ②6層ぐらいの資料で、方向スペクトルをいくつか求めて、それらの平均や分散を評価する方法の可能性はありますか。
14	高精度な方向スペクトル	橋本典明ほか	山口正隆	愛媛大学名誉教授	①HとTを同時に考えて作用波圧を最大にする統計量に対する極値統計解析は考えられませんか。
15	うねりによる高波	平山克也ほか	山口正隆	愛媛大学名誉教授	①地形解像度60kmの波浪推算では気象庁沿岸波浪計資料やごく沿岸部のNDBCブイ波浪資料は比較に使えないと思いますが、いかがですか。 ②これまでの資料と同様に、JRA-55風資料はとくに1979年以前では衛星データなどが用いられておらず、それ以降でも衛星データを含めて観測地点数に変動があるなど、その結果として非等質性が存在すると考えられます。したがって、推定された平均波高のトレンドは本来のトレンドに上記の影響が加わったものと思われる。一方、NDBCによるブイ波浪観測資料には機器の特性や解析法に伴う人為的なトレンドが含まれているようで、少し前までの傾向変動の解析結果に疑念がいだかれています。ということで、推算結果と観測結果に基づくトレンドの比較は精
18	JRA-55にもとづく	森 信人ほか	山口正隆	愛媛大学名誉教授	①水圧式波高計による観測波浪に対し推算結果の周期が過小評価となった理由は、高周波数成分を適切に計測できなかったためと思われる。そこで、低周波数成分の再現性を確認するために、両者の周波数スペクトルを比較してはいかがでしょうか？
19	気象庁MSM風資料と	野中浩一, 山口正隆, 井内国光, 日野幹雄, ほか	平山克也	国立研究開発法人港湾空港技術研究所 海洋研究領域波浪研究チーム	①Taylor図ではbias(両平均の差)が直接表現されていない点が気になりますが、この点についての見解はいかがでしょうか。
20	東京湾, 伊勢湾および	畑田佳男, 矢野竜太郎	山口正隆	愛媛大学名誉教授	表層流の観測結果に基づいて副振動を検知する場合、表層の流向と下層の流向が実際には一致しておらず誤検知につながる可能性はあるのでしょうか？
22	流速観測による	鈴木高二朗 他	中條壯大	熊本大学	仮定の気圧波を移動させた数値実験によって長崎における副振動の最大振幅や他地点への到達時刻の再現ができたということであったが、実際にそのような気圧波の伝播が生じていたかどうかについて、何か観測値等から証明されるデータがあればご教示ください。
23	九州東シナ海沿岸で	松尾俊平 他	中條壯大	熊本大学	①予測手法の開発に用いた長周期波データはどこで観測されたものでしょうか？ ②一般に、うねり波群ではより振幅の大きな長周期波を拘束すると考えられます。これを踏まえた場合、観測された長周期波とうねり波浪との相関性はどの程度みられるのでしょうか？
24	台風に起因する長周期波	羽角華奈子, 織田幸信, 本田隆英	平山克也	国立研究開発法人港湾空港技術研究所 海洋研究領域波浪研究チーム	沿岸の波浪計や潮位計が震源域内にある場合、観測波形記録には、計測器設置位置における地盤変動の影響が現れることは確かだと思われるが、水平成分ばかりでなく鉛直成分の地盤変動も存在しています。水辺変動成分だけではなく、鉛直変動成分についても、何らかの考察や説明が必要ではないかと思われます。
27	2011年東北地方……	根本信様ら	永井紀彦	(株)エコー	防潮林や植生等の効果を検討しましたか？今後、これらの検討を行いますか？
29	準3次元……	宮下卓也他	高梨和光	清水建設(株)	崩落した土砂はビンガム流体で解析しましたか？粘性を高粘度として解析しましたか？
30	地すべり……		高梨和光	清水建設(株)	解析で左岸の結果が一致していないのは何故ですか？考慮した鉛直方向の寄与が大きいのではないですか？VOF法等の3次元解析で比較しましたか？
31	非静水圧……	松井大生	高梨和光	清水建設(株)	中心気圧と台風の移動速度の緯度方向変化の設定が結果に与える影響はどの程度か(その最初の設定が少し変わったときに高潮偏差値どれだけ敏感に反応してしまうのか)
34	東京湾における高潮災害	中條壯大, 藤木秀幸, 金洙列, ほか	有吉望	京都大学	①高潮ポテンシャルの最大を1.8mと見積もられていますが、1917年や1938年の台風に伴う高潮(1.9~2.2m)や江戸時代における歴史高潮を考慮すると低すぎると考えます。この点に対する御意見はいかがでしょうか。 ②湾における高潮・波浪計算に使用する風特性として風速のみならず、湾軸方向に向かう傾向にある風向の適正評価がポイントだと考えます。これは台風モデル風そのものでは無理だと思いますので、この点に
34	東京湾における高潮	中條壯大ほか	山口正隆	愛媛大学名誉教授	①中心気圧910hPaに対して最大半径75kmの設定は平均値としては少し大きすぎるように思います。もちろん設定台風としては可能でしょうが。
37	気象庁台風区分に対応	竹下哲也ほか	山口正隆	愛媛大学名誉教授	

38	ニューラルネットワークによる高潮	金洙列, 松見吉晴, 出田裕二郎, 日野幹雄, ほか	平山克也	国立研究開発法人港湾空港技術研究所 海洋研究領域波浪研究チーム	①教師データとして過去および将来のデータを用いられていますが, すると, これらを学習したニューラルネットワークは, 現在から将来にかけての気候変動を考慮した推定が可能になっていると考えてよいでしょうか?
39	沿岸...	平川雄太他	高梨和光	清水建設(株)	ドライの湖沼で検討しましたか? 周期とフルード数で検討しましたか?
39	沿岸湖沼に突入する津波の	今井 健太郎・平川 雄太・会田 俊介・三戸部 佑太・高橋 智幸・今村 文彦	田中規夫	埼玉大学・レジリエント社会研究センター	1)沿岸湖沼の岸沖方向のスケールと津波のスケール(特に周期と波長)で反射のタイミング、浜堤からの越流の減衰時期、の関係が大きく変わると考えられる。 現時点においては津波の特性変化を考慮していないので、提案された式(4)は大きく変わるのではないかと。 入射津波のスケール効果について、現時点での条件と、今後追加すべき条件についてどのようにお考えか、教えてください。
40	沿岸...	三戸部佑太他	高梨和光	清水建設(株)	エネルギーや仕事での検討はしましたか? 相似則での対比はしました
42	2011...	今井健太郎他	高梨和光	清水建設(株)	バラツキを入れて定式化すると付加項がでてくるのではないですか? 局所的にトレンチのように掘り込み、検討しましたか?
55	レベル2津波の堤防越流に	五十嵐善哉、他	姫野一樹	国土交通省 国土技術政策総合研究所 海岸研究室	①堤防本体と二線堤の位置及び高さの関係で、跳水が発生するか否か発生する箇所が変わるということですが、越流水深との影響をもう一度教えてください。 ②(越流水深と2つの堤防の高さの関係により、跳水の発生状況が変わることを踏まえて、)1つの越流水深に対して理想的な状態でも、必ずしも他の越流水深について、対応させるわけではないという理解で良いで
59	複数の造波手法を有する	大倉 翔太	剣持 知浩	(国研)港湾空港技術研究所	発表された内容からは津波のなかの1波について再現されているように見受けられましたが、津波は第2波、第3波と繰り返し来襲するので、そのような繰り返しの津波についても再現できるのでしょうか。
63	解適合格子を用いた	千田優	浅野敏之	鹿児島大学	高潮計算に解適合格子を用いるのは、陸上氾濫による計算領域の伸縮に適用すると強力な解析手法となると思われるが、今後のこの研究の展望に入れているのか。
63	解適合格子法.....	千田優様ら	永井紀彦	(株)エコー	AMR法は、計算機資源の節約に有効な手法であることが理解できましたが、節約量の定量的な評価が必要ではないかと思われま
64	ベイズ情報量基準	高川智博	浅野敏之	鹿児島大学	観測誤差データベクトルの確率密度関数を多次元正規分布で与えているが、真値がシミュレーション結果でない現実波源の場合は、観測誤差は断層の時間遅れ等に起因する系統的誤差になるのではないでしょう
76	冬季東シナ海	田中健路	浅野敏之	鹿児島大学	気象津波の発生起源となる気象擾乱は12月2日に発生し、12月4日に枕崎に気象津波として観測されたと考えて良いか。 大気観測は主として九州北部で行われているが、沿岸における気象津波の観測結果は枕崎が示されているのみである。他地点で気象津波は観測はされていないか。
77	極端な気象擾乱における高波の非線形特性について	森 信人・高木 友典・間瀬 肇・安田誠宏・島田 広昭	畑田佳男	愛媛大学	波浪推算精度と方向分解能の対応が季節風の場合は方向分解能を細かくすれば推算精度が良くなるのに台風の場合は方向分解能を細かくしても推算精度が良くなるはず、季節風と台風で異なるのはなぜでしょうか? 理由がわかりましたら教えてください。
77	極端な気象擾乱における	森 信人ほか	山口正隆	愛媛大学名誉教授	①SWANによる計算は提示されたGPS波高記録の急激な時間変化(発達期と減衰期)に追従しますか。 ②観測記録における最大の1波であるHmaxの統計的な安定性が気になります。正しく測定されていると考えてよいのでしょうか。 ③SinにJanssenの式を用いられているので、Cd則は不要ですが、その場合過大な波の発達を抑制するために人為的な操作を行っていませんか。 ④BFIあるいはこれに用いられている合田のQpへの周波数解像度 $\Delta f$ の
84	粒子	原田	佐藤	東大	底面摩擦の位相差が $\pi/4$ より大きくなっているのはなぜか? 移動床では、混合が増えて、位相差が小さくなるような気がするが、計算では大きくなっている?
84	岩手県陸前高田市における2011年東北地方太平洋沖地震津波による大規模土砂移	山下啓 他	宇多高明	一般財団 土木研究センター	①人工リーフの開口部に対応した砂州部分で侵食が大きいのは、人工リーフの影響でしょうか。
86	沿岸災害リスク	伴野雅之	浅野敏之	鹿児島大学	観測後90日、1年といった短期間の砂浜の災害リスクの評価には、観測時における波の状況(ストーム時か否か)が、砂浜の動的応答と関係して結果に大きく影響を与えると思うが、いかがか。
87	サンゴ	岩塚雄大ら	佐藤	東大	サンゴ礫の細かな空隙は、波の作用でどの程度浸水するものなのでしょうか? 空隙が残るとすれば、みかけの水中比重がさらに小さくなると思われま
92	干潟浅海域周辺での	高嶋紀子ら	鶴崎 賢一	群馬大学大学院理工学府 環境創生部門	① 現地は砂と泥の堆積域が明瞭で、Stn1, 2の含泥率の違いに明示されていますが、Stn1, 2とも航跡波によるSS濃度上昇の反応があるのは、砂も巻き上がると考えていいか。そうするとかなり航跡波が大きく、水深も浅い状況と考えられるが、それぞれどれくらいか。 ② 流速に対するSS濃度の依存性に差異がなく、また図-10では逆のようにも見受けられるが、底質だけでその場のSSデータを解釈するのが
94	豊川河口干潟に	岡部拓巳ら	鶴崎 賢一	群馬大学大学院理工学府 環境創生部門	① 六条潟の土砂供給源は豊川だけか。河口干潟でも沿岸漂砂が無視できない場所もあるが、ここかどうか。現在の豊川からの土砂インパクトの情報はあるか。 ② 縁辺部から着色砂が北へ移動しているように見えたが、潮汐残差流は吹送流も南向きで一致しないように見えたが、
95	統合型河川・浅海域	山西琢文ら	鶴崎 賢一	群馬大学大学院理工学府 環境創生部門	L-Q式のQとして日平均流量を用いると、土砂量は2乗、3乗で効いてくるので過小評価にならないか。連続計算をしているのなら、ハイドログラフを使うべきではないか。
98	那珂川の流出土砂量	野本智快ら	鶴崎 賢一	群馬大学大学院理工学府 環境創生部門	① 水族館前の侵食は93年以降急速に生じたと判断していいか。那珂川は大きなダム建設等がないように把握しているが、那珂川の急激な土砂量減少の原因はなにか。 ② 大洗港北側では震災後に侵食しているが、那珂川からの流送土砂が堆積しているとするならば、こちらも土砂量減少の原因はなにか。該当地域では地震による地盤沈下が問題となっているが、その影響は考慮されているか。
102	A study on characteristics ~	Seunghyun AN・Satoshi TAKEWAKA	吉野真史	一般財団法人漁港漁場漁村総合研究所第二調査研究部	What special characteristics about frequency of wave, does X-band rader have? For example, very high or low frequency wave can not detect, a bubble can not detect ?

105	台風期の高波浪が河口の水理、地形変動に及ぼす影響	佐々木勇弥	山本耀介		・最後にまとめとして全体像、というように発表されていたが、この結果は全ての砂州についていってもよいのか、それとも対象の固有地形によるものなのか。 ・サンプル数を増やす方法、必要性について
109	北海道鶴川河口	大塚淳一	鶴崎 賢一	群馬大学大学院理工学 府 環境創生部門	①河口域では意外と河川からの土砂供給と沿岸漂砂のバランスがあると思うが、ここは沿岸漂砂が期待できない以上、24万侵食、29万堆積の結果から河川からは4万供給とみていいか。期間中の出水情報があればお教えいただきたい。 ②冬季波浪は逆向きと予想されるが、堆積域の土砂が今度は逆に侵食域に移動することはないのか。
122	リーフ海岸での砂供給	宇多高明	鶴崎 賢一	群馬大学大学院理工学 府 環境創生部門	①発表中にも触れられていたが、サンゴ礁からの土砂供給だけだとすると1946年の江線に戻る前に砂浜面積が頭打ちになる理由は何でしょう。上流の地質組成が異なる状況で、各河川の元素分析結果にさほど明瞭な違いが認められないのは、非アルカリ火砕流が主体の地質とそれ以外とでも組成としては類似しているということか。
126	底質の化学元素に着目した	辻本剛三	鶴崎 賢一	群馬大学大学院理工学 府 環境創生部門	
138	ハネ部を有する防波堤の消波工、マウンド被覆材の安定特性に関する実験的	森川高德ほか	久保田真一	(株)不動テトラ ブロック 環境事業本部 総合技術研究所	・上部斜面堤を対象とした検討ですが、ブロックの安定性に関する結果を直立の堤体にも適用できるのでしょうか？
144	盛土材料に着目した	本田隆英	池谷毅	鹿島建設技術研究所	侵食断面をみるとまき出しの層境で侵食が大きくなっているようにみえる。地盤の状態が、鉛直方向に変化しているように思われるが、把握されて粘土を混合した材料とセメントを混合した材料を層状にして施工したモデルで検討しましたか？
144	盛土材料・・・		高梨和光	清水建設(株)	
148	An・・・	Abhas	高梨和光	清水建設(株)	Why do the zigzag lines of pressure generate?
149	水理模型実験による防潮堤に作用する孤立波	有川太郎	池谷毅	鹿島建設技術研究所	①大規模な実験の成果に対して敬意を払います。孤立波と実際の津波とは、一般に波形の特徴は異なります。孤立波を用いて津波をモデル化する場合、津波のどのような特徴を再現していると考えれば良いのでしょうか？津波の全体を孤立波に置き換えているのでしょうか？それとも、ソリトン分裂した分裂波峰を孤立波でモデル化しているのでしょうか？ ②Fr数が1より大きい場合に、波圧係数 $\alpha$ は、同一のFr数に対して、大きくばらついています。このばらつきを説明する要因としては、孤立波のもつどのような特性が影響しているとお考えのでしょうか？
151	前面に水位を有する構造物	有光剛	池谷毅	鹿島建設技術研究所	前面に水位を有する場合と有しない場合で、構造物からの反射断波の波速に差がありますでしょうか
159	段波状津波作用時のコンクリート構造物の変形に関する流体—構造解析	川崎 浩司・坂谷 太基・野中 哲也	高橋 俊彦	鹿島建設株式会社・技術研究所	論文中の「図-5 直立壁に作用する津波波圧の時系列変化」において、P3の実験値は1.2秒あたり以降でほぼゼロとなっているが、P3より上に設置されたP4、P5での実験値は10~20kPa程度出ている。本研究で用いられている解析モデルでは、そのような現象を再現するのは困難と考えられるが、実験で実際にそのような現象が発生していたのでしょうか？あるいは、P3の実験値自体にささか疑問点があるのでしょうか？
159	段波状津波作用時のコンクリート	川崎、坂谷、野中	水谷夏樹	大阪産業大学	①ひずみの時系列に現れる最初の極大値は、衝撃波圧と重複波圧の間の時間帯に生じていますか？ ②OPEN-FORMでは、気液界面での密度関数が0~1の間のセルがすうセルあると思いますが、衝撃波圧が $\rho V^2$ で表せるとすると、気液界面付近での $\rho$ が水の密度になっていないことの影響があると思いますが、いかがでしょうか？
166	胸壁に作用する津波波力	大村智宏、他	姫野一樹	国土交通省 国土技術政策総合研究所 海岸研究室	①今回の実験式を設計に使うに当たって、揚力等の検討がなされているか教えて下さい。 ②朝倉ら2000であったような分裂波の影響は、今回の実験式では網羅されていないという理解でいいか教えて下さい。
181	流起式可動防波堤の津波減勢効果	東 良慶ほか	山口正隆	愛媛大学名誉教授	①並列による複数の設置は可能ですか。また、対象水深はどれ位でしょうか。 ②津波の完全反射または越流のいずれを想定されていますか。 ③一基あたり概略どれほどの建設費になりますか。
182	流起式可動防波堤の津波に対する	東 良慶ほか	山口正隆	愛媛大学名誉教授	①1年あたりどの程度の稼働頻度を想定されていますか。
188	越流に対する従来形式の	松島健一、他	姫野一樹	国土交通省 国土技術政策総合研究所 海岸研究室	①最初の動画の実験ケースで、越流終了後、はらみ出しが生じたということですが、堤防前面地盤については、透水性があったのか教えて下さい。
191	透水性二重護岸による護岸改良	長澤大次郎、高山知司、久保田進	平山克也	国立研究開発法人港湾空港技術研究所 海洋研究領域波浪研究チーム	①1つ目(沖側)の護岸構造物下部に生じる揚圧力はどの程度になるでしょうか？
192	人工リーフ変状連鎖に及ぼす	中村英輔、野口賢二、岩佐隆広、ほか	平山克也	国立研究開発法人港湾空港技術研究所 海洋研究領域波浪研究チーム	①被覆ブロックの被災が碎波点から離れた碎波帯内でも増加しているのは、碎波後の波による流れの影響と考えてよいのでしょうか？
196	海岸堤防空洞化の加速	岡部 裕美	剣持 知浩	(国研)港湾空港技術研究所	非圧縮性物質で吸い出しの速度が低減された実験結果について、非常に興味深く感じました。今回は水の袋を入れて実験をされましたが、非圧縮性物質ということで岩石やブロックを入れても同様の結果が得られるか興味があるところです。(非圧縮性物体の性状、配置位置による影響があるか等の課題についても興味があります)
209	台風時の伊勢湾海域の水塊構造変化に及ぼす密度成層度の影響に関する数値的研究	鈴木一輝・川崎浩司・岡本英久	柳川竜一	岩手大学地域防災研究センター	①台風通過時の最大水位は再現性が高いが、その後の変動パターン(高潮となる時刻)にずれがあるようだ。その理由は？また、伊勢湾でも同様の時間差が現れているのか？
210	浮遊低次生態系・海底堆積物	千葉賢	入江政安	大阪大学	1. 浮遊系モデルと底質モデルで接続しない項目(例えば、鉄・マンガン酸化物の底面への供給量、有機物の分画の違い)をどのように設定しているのか？ 中長期の予測する上で、上記項目の設定が計算結果に大きな影響を与えらると思われるが、精度を確保する上での値設定時における対策、妙案はあるか？

212	東京湾奥部における硫化物を含む無酸素水塊の変動特性と数値再現	佐藤文也・佐々木 淳・佐野弘明・呉 海鍾	柳川竜一	岩手大学地域防災研究センター	①静水圧モデルと非静水圧モデルでの比較すると結果が大きく異なるとのことだが、鉛直層の解像度が大きく関係しているのでは?そうでなければ、何が原因と考えられるのか?
213	船上調査と岸壁調査を組み合わせた東京湾	田中陽二	入江政安	大阪大学	1. 大阪湾の場合、貧酸素水塊の高濁度水塊はデトリタス由来のものであることを目視で確認できるが、仮説は本当に正しいのか? (というような質問をしましたが、湧昇時(前)の底層DOが大阪湾に比して、高いので、仮説のようなこともあり得るかもしれません。両湾でメカニ
217	4次元変分法~	岡田ら	山中亮一	徳島大学大学院	データ同化に使用するモニタリングデータは目的を達成するために十分であったか? 場所、データ密度など、必要な程度を含めて教えて下さい
224	大阪湾阪南~	杉本ら	山中亮一	徳島大学大学院	台風の影響で光合成活性が低下した原因を教えてください。量子収率の調査の際に、同じ個体を追跡対象とされたのですか? (同じ個体を追っていないのならば、量子収率が台風後に回復したのは、量子収率が低下した個体は死滅してしまい、程度の良いヨシだけが生き残ったからかもしれませんね)
226	西表島~	村上ら	山中亮一	徳島大学大学院	風が種子の水面上に出ている部分に及ぼす影響(推進力として)はモデルに含める必要はあるでしょうか?
229	水環境の長期的変動および	堀江岳人, 岡田知也, 田中仁	秋山吉寛	国土技術政策総合研究所, 沿岸海洋・防災研究部	環境と釣獲数の変動との関係は体サイズで異なるか?
232	粒子追跡・物質循環~	杉松ら	山中亮一	徳島大学大学院	浮遊中のアマモの分解過程を考慮すべきか教えてください。
240	消波護岸上の全海水飛沫量	泉宮尊司ほか	山口正隆	愛媛大学名誉教授	①k4則はk2.5則ではないのでしょうか。 ②国司・今里の高速風洞水槽におけるにおける実験結果の精度は疑問視される面もありますが、これが本研究の資料の整理結果に大きく影響しているように見受けられます。この点に対する御意見はいかがです
243	干潟実証実験による浚渫土砂適用性に関する研究	永井一浩・板生考司・松山公彦・首藤 啓	柳川竜一	岩手大学地域防災研究センター	①人工干潟に定着したアサリの加入元はどこから来たのか?伊勢湾の流況特性を配慮した造成計画を立てなければ浮遊幼生が定着しない可能性があるため、流況等も検討された経緯があれば教えてください。 ②干潟内にアオサ等の藻類が繁茂してはいないか?また、繁茂していた場合、底質・生物への影響があったのか?
248	干潟における~	渡辺ら	山中亮一	徳島大学大学院	海の公園での潮干狩りにる系外除去は考慮されていますでしょうか?
251	全球の統計的波高推定手法	森 信人ほか	山口正隆	愛媛大学名誉教授	①回帰式の作成(前半)と検証(後半)で用いられた基礎資料(JRA-55)の性質の相違の影響はみられませんか。JRA-55には用いられた観測資料の種類や量に伴う不等質性が存在すると推定しますので。 ②回帰式において平均値に対して3変数, 極値に対して1変数とされた理由がよくわかりません。通常変数が増えると相関係数も増えるか、あまり変わらないかと思うのですが。相関係数の大小以外の理由はありません
252	気候モデル台風のバイアス補正手法	安田誠宏ほか	山口正隆	愛媛大学名誉教授	①高潮の将来変化を議論する現在気候下での高潮推定値として1979~2003年の値をとるのはいかがなものでしょうか。とくにわが国沿岸では1950年代~1970年代の台風に伴う高潮が全国規模で大きかったように思います。そうであるとすると、高潮の将来変化量もずいぶん小さめに変わると思います。高潮はレアな現象である以上、できるだけ長期間の資料を用いて現在気候下での高潮を評価する必要があると考えま
253	気候変動に伴う最大クラス台風経路	澁谷容子ほか	山口正隆	愛媛大学名誉教授	①伊勢湾台風(T5915)の経路を回転させて抽出された台風は一見して1921年9月に富山測候所長の悲劇を生じた台風(うすらおぼえですが、たぶん台風物語:気象協会)と類似していると感じました。この台風もT5915ほどではありませんが、名古屋に重大な浸水被害をもたらしたようです。しかし、これまでに名古屋港に大きな潮位偏差(2m前後以上)をもたらした台風はT5915のほかT3412(室戸台風), T5028(ジェーン台風), T6118(第2室戸台風), T7220(T5313(テス台風)は三河湾で大きい)であり、いずれもT5915のようにSW-NEの経路をとっています。江戸時代にも何個か大きな高潮が生じたそうですが、経路はSW-NEの方向と推測します。要するに、N-E方向の進路をとった巨大台風はほとんどないように思われます。それが再現期間約430年に現れているのかもかもしれませんが、今後、当該台風コースの気象学的な可能性を調べてみる必要があると思います。 ②内湾の台風モデル風による高潮計算では模擬supergradient風による風速の増強に加えて湾軸に沿って吹送する風向場の適切な表現がき
255	北太平洋における冬季の	志村智也ほか	山口正隆	愛媛大学名誉教授	①WPパターンが気圧の南北変化パターンということですので、この特性がN-NW方向風が卓越する冬季の北太平洋の波高に反映されるのは理解可能ですが、広い領域の気圧データから求められたWPパターンと狭い日本周辺海域の波高分布パターンとの対応の議論には少し無理があるように感じられます。 ②著者らが結論で述べられていたように、WPパターンの変化の原因を明らかにすることが最重要課題だと思います。これは他の気候変動指標についても言えることです。
256	高波の将来予測を目的とした	横田, 橋本, 児玉	安田誠宏	京都大学防災研究所	緯度帯毎に補正をした場合、境界で不連続にならないでしょうか。滑らかに補正されるようにされているでしょうか。
256	高波の将来予測を目的	横田雅紀ほか	山口正隆	愛媛大学名誉教授	①JRA-25(1979~2004年)に基づく最大風速分布図においてその値が過小評価になっているように感じられます。日本周辺に配置されていた4基の気象庁海洋観測ブイによる風観測資料との比較などによる精度チェックを行われていますか。 ②高風速に対する補正量が大きすぎるように感じられます。その妥当性の検討はされていますか。
257	日本海上の爆弾低気圧	猿渡亜由未, 渡部靖憲	山口正隆	愛媛大学名誉教授	①SWANIにおける計算条件および海岸付近の地形解像度の概略値を教えてください。 ②6時間間隔のNCEP Final Analysisでは時間解像度も空間解像度も不足していると考えられますので、推算結果と観測結果の対応が非常によい理由が理解できません。何か特別の工夫があるのでしょうか。 ③今回の低気圧時の有義波高発達率は1994年以前の観測結果に比べてあまり大きいと思われるのですが、これらは同一基準で出されたもので
258	Simulation	J.D.Bricker et al	佐藤	東大	Is there any possibility that the sewage system contributed to the spatial difference in the flood level?

258	Simulation	J.D.Bricker et al	佐藤	東大	100年に一度の津波高さが3.5m程度というのは、あまりに低すぎる気がする。 また、その計算には、津波防波堤の効果は入っていないので、津波高さはさらに低くなることになり、現地の状況と合っていない気がする。
259	エネルギー保存則による	福谷陽	池谷毅	鹿島建設技術研究所	ASCE7の方法との違いを教えてください。流速(フルード数)の設定方法(根拠)を教えてください。
264	確率モデルの違いによる	信岡, 尾上	安田誠宏	京都大学防災研究所	ロジックツリーによる予想津波高は1つなのでしょう。予測値に幅があると思うのですが、極値統計モデルの結果がロジックツリーの結果と合っていないと考察されていますが、極値統計モデルのばらいている結果は、ロジックツリーの予測幅に内包されるのではないのでしょうか。
266	津波浸水エリアに立地する	鳥庭様等	姫野一樹	国土交通省 国土技術政策総合研究所 海岸研究室	①今回の研究のアンケート・助言をした後に発生した徳島県南部地震での避難にこの取り組みの効果があつたか、実際に、保育園の方にとって、いい予行練習になったと感じているか、感触などを教えてください。
267	海岸堤防	渡辺ら	佐藤	東大	「方向敏堤を避ければ、30分程度のフライトタイムが稼げる」というのは、有用な結果と思われるが、はんらん低地の大きさにも依存するのではないか？
269	地震の揺れに伴う屋外への退避行動と津波避難開始の関係性に関する研究	土肥裕史・奥村与志弘・小山真紀・清野純史	岡安章夫	東京海洋大学	①地震発生当時のモール滞在者数の推計が5000名ということですが、その信頼性はどの程度のものでしょうか。 ②避難場所への通路では、避難者の通過数が10名/秒程度になるものと思います。通路幅が3m程度とのことですが、シミュレーション上ではジャミング等は起きないのでしょうか。
283	海域利用の安全性向上を目的としたマルチコプターによる離岸流調査	杉村佳寿・高橋伸一・田邊貢一郎・黒木敬司・斎藤武久・西 隆一	柳川竜一	岩手大学地域防災研究センター	①対空標識を陸域と海域に設定しているが、どのよう(手法や地点数)に海域に設置したのか?波・流れによる動揺により標識が動いたりといったトラブルは発生しなかったのか?また、対空標識を用いた位置合わせ(位置情報の確立)とGPSフロートの軌跡などと連動した解析も実施して
287	UAVを使った低空画像	大石 哲	剣持 知浩	(国研)港湾空港技術研究所	構造物に生じたヒビについて画像を抽出して見せていただきましたが、UAVにより取得した広範な映像の中から画像認識で自動的にヒビを抽出することはできるのでしょうか。 これができることになれば、従来の人間による目視調査と比べて飛躍的に時間短縮が図られると考えられ、期待しております。
287	UAVを使った低空画像解析による海岸堤防の劣化状態の検出	大石 哲・白谷栄作・桐 博英・高橋順二・水上幸治・村木広和	柳川竜一	岩手大学地域防災研究センター	①UAVで推定した地盤高と現地測量で得られた地盤高の差(標準誤差?)は2cmとのことだが、今回対象とした地域の高低差は10cm程度しかないようだ。測量地域の高低差がより大きくなっても、標準誤差は同程度と見なして良いのか?
288	L-バンド合成開口レーダによる津波被災地の建物被害推計手法の開発	郷右近英臣・越村俊一	柳川竜一	岩手大学地域防災研究センター	①L-バンドを用いた解析は、岩手の漁村地域のような宅地が粗に点在する地域でも適用可能なのか?